

園部製茶

佐賀県三養基郡基山町



店舗概要

創業年：1965年(昭和40年)
売場面積：39.6㎡(12坪)
従業員：4人
営業時間：9:00~19:30
定休日：第2日曜日
売上高 41,739(千円)

商品構成

日本茶：95.0% 茶菓子：2.0%
干し椎茸：2.0% 茶器：1.0%

経営方針

- ・自製自園のお茶を直販する店として、生産者の顔が見える店作り。
- ・日本の茶のはじまりのひとつ背振山麓の基山町の自然を活かした土作りからの生産体制。
- ・お茶本来の旨みを知っていただくための商品づくり。

背振山系のふもとで育つ茶葉を直売

[香り豊かで甘みのある基山茶]

当店は、自園自製の茶を直販している。茶業界では、生産者が荒茶に仕上げた茶葉を、茶小売業者が仕入れ、仕上茶としてブレンドし、販売している。こうした茶の流通形態については、消費者にほとんど知られていないため、生産者が自ら店舗を持ち、自らの栽培上の工夫などを説明しながら販売するケースは極めて珍しい。

基山町は、嬉野など佐賀県内の茶の産地でもメインでなく、生産量も限られている。同町の特徴として、霧がかかり、昼夜の寒暖の差がある高地の気候と赤土の土壌が香り豊かな甘みを生み出しているとのこと。当店の扱う茶の量は、決して多くないが、基山ブランドのひとつとして、地元を中心に認知され始めている。

[生産から販売まで、経営者の顔が見えるこだわりのお茶屋さん]

茶樹の栽培は、肥料メーカーと連携して、定期的に土壌分析を行い、自畑に適合した有機配合肥料を製造し、環境にやさしい丁寧な土作りから行っている。

じっくり育てた茶葉は、葉が厚いため、蒸し時間を長くするなどして、産地と直接結びついた製造方法を取っている。

摘採(お茶摘み)した茶葉は、新鮮なうちに加工し、真空パックすることにより年間を通して美味しく香りのよい商品に仕上げている。早生から晩生のお茶の品種を栽培することにより、旬の味を凝縮した商品提供が可能となる。産地が見える場所で、その年の気候により左右される茶の様子なども消費者に直接伝えながら茶の販売をしている。こうしたことから地域ブランドとしての認知を高めることにつながっている。

販売者が生産者という強みを活かし、売りやすいものではなく、生産者が本当に消費者に味わってほしい茶を製造し、環境に負荷を少なくする栽培方法は、地域環境を守るためにも有効である。

当店は集合店舗にあり地域の人買いやすい環境にある。ショッピングモールの活気が失われつつある中、単独店として貢献しているものの、どうしても活気がなく感じられるのが残念だが、現状を変えようと、店頭で季節の目玉商品ののぼり、看板、POPを掲げ、誘客に努力されている。

[地域独自のブランド茶]

商品は流行に左右されず、産地の特性を活かした茶商品づくり。メインの商品は「あさつゆ」(水色のいい、さっぱりとした飲み口)、「基山の翠」(香りが深く、味が濃い飲み口)である。

上級茶にあたる「基山の翠」は、中蒸し製法(通常の煎茶と深蒸しの中間)で、香りを残しながらも深い味を出し、3つの価格帯がある。茶産地の特性、栽培方法に合わせた製法を取ることで地域独自のブランドならではの香りと味を生み出すことができた。

店内は、イーゼルや茶器などを使って季節感のある色彩や飾りと季節限定品の商品(低温保存してきた茶を10月末から蔵出しとして商品化)の陳列により特徴ある店づくりを演出している。また、「お茶の具楽誌」というミニ情報誌やリーレットを置いて顧客への情報提供やお茶の入れ方ミニ講座を開催するなど顧客へのサービスを心掛けている。

[地元の菓子とのコラボレーション]

基山町の物産品を集めた逸品(いっぴん)キャンペーンのなかで、地元商店の和菓子(お芋の菓子)と組み合わせた提案をしている。逸品キャンペーンは、毎年定期的に行われており、地元物産品の掘り起こしや周辺自治体への販売促進に役だっている。

高齢化する地域にあって、公共交通機関が十分でないため、買い物に来たくても来られない方のために1,000円以上お買い上げの場合、町内に限り、無料で配達することで、売り上げの増加と同時に地域での支持が高まった。

固定客へのDMの発送。新茶、中元、歳暮、新年など年5回、固定客にDMを発送。範囲は、鳥栖、基山中心で、1回あたり300通。

ふるさと基山を代表する特産品として地元で受け入れられている。日常に使用する茶としてはもちろん、基山、佐賀を代表するギフトとして贈られ、贈られたひとから問い合わせがあるなど好循環が生まれている。

【店舗立地】

佐賀県の東端に位置し、佐賀県の東玄関口となっている。

鹿児島本線の基山駅からすぐのショッピングモール内のお店。

北部には基山を主峰とする筑紫の山々が連なっている。また、栄西が中国から茶樹をもたらしたといわれる背振山が近く、日本の茶発祥の地のひとつともいわれる。

商圏は基山町(17,700人)と佐賀県西部の中心都市および鳥栖市となる。基山町全体で、地元物産品のPRをしている。

【店舗実績】

運営者(代表)は、地元の高校を卒業後、父が始めた茶の製造販売業を継ぐために、農林水産省野菜茶業試験場(静岡県)研修課に入り茶の栽培製造技術を学び、修了後、昭和57年に園部製茶に入社、平成3年11月に代表者となる。

現在は、代表者が茶園での生産を担当し、代表の弟勇氏が店舗での販売、営業を担当している。

↑代表者の久保山博之さんと弟の久保山勇さん



←商品の紹介だけでなく

お茶の知識も紹介するダイレクトメール



↑基山を代表するギフト商品



↑イーゼルで季節商品のご案内